

1999年(平成11年)12月  
第 19 号

この子等の幸せを考える親の会  
榎の木グループ

事務局

☎ 494-0018 尾西市富田漆畑16番地

TEL/FAX 0586-61-6055

編集責任者： 広報・研修部

# きぼう

## 理事長就任の挨拶

拝 啓

親の会会員の皆様方並びに尾西市を中心とした地元の皆様、さらに多くのご理解ある福祉関係者の方々や行政当局におかれましては、益々ご清祥の段大慶に存じます。また、平素は社会福祉法人榎の木福祉会の心身障害者(児)福祉事業および地域の福祉活動に対し、格段のご厚情ご尽力を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、わたくしは先般の理事会におきまして役員各位からの切なるご推挙により選任され、社会福祉法人榎の木福祉会故小塚前理事長の後を受け継ぎ、新たに理事長に就任させて頂きました岡田と申します。

ところで、皆様方のどなたもがご存じのように、先代の小塚前理事長の勝れた功労に関しましては枚挙に暇がない程で、その後を引き受けるということは正に至難の業であり、とりもなおさずわたくしの人生最大の大役として、今はただこれをいかに全うすべきかと事の重みを痛感致しております。

そもそも尾西市の障害者福祉の黎明は、昭和55年に社会福祉法人榎の木福祉会が発足し、翌年の4月に榎の木作業所が開所された時点に遡ります。

わたくしはあの当時、この富田という地域の民意を代弁させて戴く一介の市議会議員にすぎませんでした。小塚前理事長の「尾西市に糊口を凌いでい

る障害者やその親御さんのために力を貸してください。」とのお言葉に胸を打たれ、「これは他人事ではない、行き場がなくて家の中で閉じ隠ってしまっている方達のために、無力なわたくしで宜しければ是非役立ててください。」という思いに駆り立てられ、法人設立から施設建設、運営までをご一緒させて戴くこととなりました。

ひとつの地域に福祉の芽を育てゆくことは大変な根気と努力が肝要でありわたくしも小塚前理事長も皆様方に多くの教えを賜り、暗中を模索しながらの毎日でございました。

そして、さまざまな紆余曲折はありましたものの、地元の皆様のご理解や福祉関係者、行政当局のご高配によりまして、やっとの思いで平成12年度には「かしの木の里（知的障害者入所更生施設）」を開所できるところまで漕ぎ着けることができました。

ところが、順風満帆も束の間、さあ、これで一安心と一同安堵の念に暫し一息入れておりました矢先、小塚前理事長の突然のご逝去という誠に痛恨極まる現実が無情にもものしかかかってきたのです。

ああ、天は無情にも氏に齢を与えず、永遠に此彼に戻らぬ身となってしまわれました。

須らく、小塚前理事長は「かしの木の里」の完成の後も法人の最高責任者として指揮を執り、樅の木もこれで暫らくは安泰である、と誰しもが確信していたが故にこの無念さは筆舌に尽くし難いものでした。

しかし、わたし達には何時までも女々しい気分には打ち拉がれ、ただ切歯扼腕するだけの暇はございません。

運よくこの世にこうして生き永らえている以上、小塚前理事長の志を温め、これを真に展開してゆくことの使命が与えられている筈です。



額面どおり、不断に「この子等の幸せを考える」ことを自らの課題として、「この子等」と共に生きてゆく地域づくりが大きな目標なのです。

私事で恐縮ではございますが、わたくしも本年で40年間に及ぶ尾西市議会議員の職を静かに辞させて頂きました。

振り返ってみると、政治は私自身の人生にとって第一の柱でありました。

わたくしは市民の声を行政に反映させることを己れの使命とする仕事に従事する傍ら、微力ながら檜の木福祉会や親の会の皆さんに側面的なお手伝いをさせて頂き、今日に至って参りました。

ところが、今度は社会福祉法人の理事長という立場、すなわち今までの生き方を根こそぎ引っ繰り返して、あくまでも障害を持つ方々やその親御さん達の全面的な味方に立ち、しかるのちにそのための地域づくりをしてゆくことを最大の目標とする立場に身を置こう、とここに決意致しました。

わたくしがかような責務を自ら背負いこもうと覚悟を決めるに至ったのも、偏えに小塚前理事長や皆様方のご熱意が知らず知らずのうちにわたくしの背中を後押しして下さっていたのかも知れません。

執れにしましても、社会福祉法人檜の木福祉会の理事長として、尾西市を中心とした地域の障害者福祉を担う組織の責任者として、無力ではございますがこれを己れの第二の人生として全力を尽くしてゆく所存でございます。

どうか皆様これからも相い変りませず、ご指導ご鞭撻の程賜りますようよろしくお願い申し上げます。

まずは取り急ぎ簡略ながら書面にて挨拶まで。

敬 具

平成11年12月7日

社会福祉法人檜の木福祉会 理事長 岡田 春雄



(8)

親の会の聲

来春オープン在生活施設の名称は

**かしの木の里**

来年4月に開設予定の知的にハンディのある人のための生活施設の名称は、「かしの木の里」になりました。皆様、檜の木作業所、檜の木園同様、何卒よろしく願い申し上げます。

「檜の木」という名称は、設立当時の櫛田市長さんが、障害のある皆さんも、檜の木（尾西市の木）のように強くたくましく育ててほしいとの願いからとの由来を聞き伝えられています。檜の木福祉会は発足以来、来年で20周年になります。これまで市民の皆さんや福祉関係者や市行政当局等多くの方々のご支援とご協力によりここまで来ることができました。

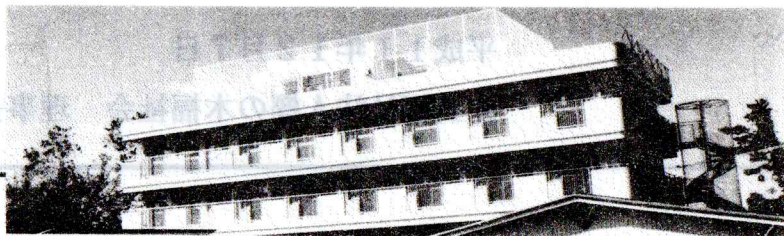
そして、西暦2000年には、「かしの木の里」が開設されます。

世界の趨勢はハンディのある人もない人も当然平等に自由に『地域で共に生活する』考え方と取り組みが進んでいます。檜の木福祉会は、そんな心豊かな福祉の街づくりの拠点になれるようにとの目標を持っています。生活施設である「かしの木の里」はハンディのある人の生涯の施設というより、利用する通過施設でありたいし、地域で暮らせることへの支援をする施設になりたいとの目標をもっております。

現在、尾西市には260余名の知的にハンディのある方がおられますが（内、親の会の会員としては60名）、その暮らしぶりなどはあまりにも把握できていません。お互いに連絡だけでも取り合えるような取り組みを進めて行きたいと思っております。この会報誌を読んで頂くだけでもと願わずにはられません。そんなふう檜の木としては、後援団体の拡充をはかり、その会員や、ボランティアの皆さんや地域の皆さんや、ハンディをもつ人が気軽に足を運んで頂けるような活気あるやさしさの泉に育てていきたいと願っています。「かしの木の里」で暮らす皆さんも関わる市民の皆さん自身の心のふる里になれるようにとの願いからこの名前が付けられました。

生活施設の名称については、この子等の幸せを考える親の会の会員等よりアンケートをとり、生活施設建設準備委員会や職員の代表者と話し合いをもち、法人の役員会で決めて頂きました。

多数の関係者や市民の皆さんのご支援とご協力により開設にこぎつけることのできた「かしの木の里」をこれからも、皆様何卒よろしく願い申し上げます。





## 慰安旅行に行ってきました

榎の木園では、11月の第1週から第3週までの3班に別れ、浜名湖、館山寺温泉へ慰安旅行に行ってきました。

A君にとってもいよいよ待ちに待った慰安旅行の日がやってきました。快晴に恵まれた朝、いつも朝早く登園される彼はこの日も一番早く登園され、少し緊張しながらもニコニコと他の人が来るのを待っていました。その間、しおりを見ながら、「お土産は何にしようか。」「遊園地では何に乗ろうか。」「宴会ではどんな料理がでるかな。」「カラオケでは何を唄おうかな。」「…などと話をどんどんしていくうちに雰囲気盛り上がってきました。そしてバスが到着。いつも自分のペースで淡々と行動していく彼は一番にバスに乗り込み、気持ちはもう浜名湖へ。途中サービスエリアに寄りましたが、バスからは降りず、気持ちはやはり浜名湖へ。

浜松の航空自衛隊の施設である浜松広報館に到着。さっそく入場し見学をする。すると自衛隊制服のレンタルがありました。「着てみようか？」と声をかけると、なんとゆっくりと受付へ歩いて行き、つなぎの自衛隊服を着られました。いつもは自分の決めた通りに行動することを決して崩さない彼がと、少し驚かされました。

ホテルに到着。宴会では、いつもはご飯をあまり食べれずにいるのですがこの時は料理をいっぱい食べることができました。カラオケも唄いました。

二日目の朝、彼は早く起きて出発の準備は万全。時間があったので朝の散歩へ出掛けました。静かに糸を垂れる釣り人を眺めたり、記念写真を撮ったりして湖畔を歩き、ゆったりとした時間を過ごしました。

この日はホテルからすぐの浜名湖遊園地パルパルへ。メリゴーランドや汽車に乗りました。乗り物の中では、彼は私の手をギュッと握っていました。ジェットコースターは入り口まで行きましたが、勢いよく動いているのを目のあたりにして恐くなってしまったのか「乗らない。」と言われてしまいました。

二日間の旅行もいよいよ終わりに近づき、帰路のバス。いつも経験しないことが多く若い彼もさすがに少し疲れた様子でしたが、買ってきたお土産を開けてみて、本当にうれしそうな表情をみせてくれていました。

いつもは彼のペースに付いて行くだけでしたが、旅行ではこちらの声掛けに耳を傾けてくれ、いろいろな経験を共にすることができました。今後もこういった機会を通して一緒に楽しみを見つけて行きたいと思えます。





## 地域の業者さん ありがとうございます。

今回は、私が心を打たれた地域の方についてお話したいと思います。それはいつも樫の木に仕事を頂ける『古崎化成』さん御夫妻の会話からです。

こちらの工場は主にプラスチック加工をされており、樫の木には車のエアコンに使われるダクトにウレタンを貼りつける仕事を頂いております。結構手先の器用さを必要とし難度の高い作業だと私は感じておりますが時間をかけながらもみなさんにお手伝いしております。そのため、なかなか都合良く納品できないので、いつも大変ご迷惑をお掛けしております。それでも古崎さん御夫婦は何とか都合をつけてこちらに材料をまわしてくれるのです。

どうやら他に作業されている方で出荷に必要な量をこなし、こちらに負担がかからぬように気遣って頂いているようです。ですから、納品するまでの期間が1週間、2週間であったり、長い時には1ヵ月間だったりします。なぜこんなに差が開くのか不思議に思う方も少なくないかと思えます。それは樫の木では他にもいろいろな仕事があり、数量、時間制限に応じて調整しながら作業を切り替えているからです。その反面、古崎化成さんの優しさや思いやりに甘えてしまっており、大変御迷惑をお掛けしてしまっているわけです。それでもお伺いする時は、いつも笑顔で迎えて頂けるので、ご理解の深さに感激すると共に感謝の気持ちで一杯になります。更に、「単価が安くて申し訳ない」とか「わざわざ運んで頂いて助かります」などと頭を下げられる姿に私は言葉を失くし心の中で涙してしまいました。

単価も悪く無く、こちらのわがまままで聞いて頂いて、これ以上何か求める事はありますでしょうか？私はこの気持ちを早く誰かに伝えたくて、作業所の職員さんにそのままお伝えしたところ皆同じ気持ちで感謝するとともに甘え過ぎている気持ちに深く反省し、誓いました。

“地域の御理解を大切にし、それを上回る努力をしよう”と……  
。このように樫の木が地域の一つとして多くの人に支えられ助け合いながら活動できる事を嬉しく思っております。

今回は『古崎化成』さんとのお付き合いのお話でしたが、他の取引先の方々も御理解が深く、お気遣いして頂く方ばかりで本当に感謝しております。そのような気持ちをこれからも大切にし、お互い気持ち良くお付き合いが出来るような関係が続けていきたいと思っておりますのでこれからもよろしくお願い致します。





[収益事業部]

《 ありがとう ございました **ひさいまつり** での ふれあい 》

10月23日、24日の2日間、今年も盛大にひさいまつりが開催されました。今年も親の会は、社会福祉協議会様主催の福祉作品展示即売会と、尾西市商工会議所様主催の模擬店、そして尾西市農業協同組合様主催の模擬店の3ヶ所で販売させて頂きました。

お天気もよかったせいか大勢の人で賑わい、たくさんの方々とのふれあいがありました。ありがとうございました。

【バザー売上報告】

|       |                   |          |
|-------|-------------------|----------|
| 8/10  | 檜の木盆踊り大会          | 135,460円 |
| 28    | 豊田合成バザー           | 11,040円  |
| 10/9  | そぶえ産業まつり          | 83,710円  |
| 23・24 | 尾西まつり (福祉作品展示即売会) | 153,209円 |
|       | (商工会)             | 69,441円  |
|       | (農協)              | 12,576円  |
| 23・24 | 一宮福祉とボランティア活動展    | 62,820円  |

各販売先の皆様ありがとうございました

【バザー今後の予定】

12/5 ときわバザー

## ボランティアさん募集

親の会では、月一回南部公民館の一室をお借りして、手芸品の製作に励んでおります。

この手芸品をバザー等で販売し、その収益金は障害を持っている子供たちが、この地域で安心して暮らすための資金となります。

こうした私どもの活動に、協力して頂ける方を募集しております。手芸品製作にご協力をお願いします。

時間帯は、平日の9時30分から15時頃までです。

協力して頂ける方は下記までご連絡ください。

檜の木作業所 ☎0586-61-6055





[広報研修事業部]

## ’99福祉フェスティバルびさい 開催される

会工「であい・ふれあい・おもいやり」をテーマに’99福祉フェスティバルびさいが、11月21日(日)に尾西市民会館・市役所西駐車場で開催されました。

感謝状受賞者では「社会福祉活動を通じてボランティア思想の普及に寄与」との功績で故小塚清氏表彰を受けました。

今年はステージも一日通して催しが行なわれ、感謝状贈呈、福祉作文朗読の後、鼓笛演奏や尾西太鼓、手話であいさつやピエロショーなどがあり、観賞する人も比較的多く、賑わいました。

展示コーナーでは檜の木コーナーもたくさんの方が立ち寄って下さり、親の会の手作り作品が人気を呼びました。かしの木の里の紹介もさせていただきました。体験コーナーもいろいろあり、今年是一段と活気あるイベントになったように思います。来年が今から楽しみです。



福祉フェスティバルびさいの檜の木コーナーの品芸手

[お知らせコーナー]

### ☆ 中央競馬馬主社会福祉財団様の目録贈呈式が

12月2日愛知県産業貿易会館で行なわれました。

檜の木作業所の通所バスが11年間で22万km走り続け、この度の新替えとなり、マイクロバス購入への助成を頂くことができました。ありがとうございました。

### ☆ 恒例の檜の木もちつき大会は12月19日!

今年もとうとう師走を迎えました。恒例の餅つき大会は12月19日の日曜日に、檜の木作業所で行なわれます。ご期待下さい。